

## 備えを重ね被害抑える

### 宮城 ブロック塀診断

宮城県は死者 28 人が出た 78 年の宮城沖地震(M 7.4)を教訓に、ブロック塀や耐震診断などの対策に取り組んできた。県内では、03 年 5 月に震度 6 弱、7 月に震度 6 強の地震があり、78 年と同規模の地震が 30 年以内に 99%の確率で起こるとされていた。千葉宇京・県危機管理監は「今回、深刻な被害が出なかったのは、備えを重ねてきた成果が出ているのではないか」と話している。

宮城県沖地震では崩れたブロック塀の下敷きになって死亡する例が相次いだ。仙台市は 96 年度から公道に面したすべてのブロック塀計 4 万 7449 ヲ所の安全性を 8 年かけて調べた。危険なブロック塀を撤去する場合、仙台市は壁面 1 平方メートル当たり 4 千円(上限 15 万円)を補助している。

朝日新聞 平成 17 年 8 月 17 日 記事